

第4回

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー 報告書

～研究者に求められる役割とキャリア：

いかにバランスを取り、キャリアを考えるか～

日時：2024年3月10日（日）13：00～16：00

会場：日本体育大学 世田谷キャンパス 2204教室／zoom

方式：原則対面でのハイブリッド形式

主催：日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員会

第4回 日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー

研究者に求められる役割とキャリア

いかにバランスを取り、キャリアを考えるか

開催日時：2024年3月10日（日）13:00～16:00

会場：日本体育大学 世田谷キャンパス 2204教室

●スケジュール

13:00～13:10 趣旨説明, 演者紹介
13:10～14:20 演者講演
14:20～14:50 パネルディスカッション
14:50～15:20 フロアとの質疑応答
15:20～16:00 グループディスカッション
16:00～ 閉会挨拶

閉会後に対面参加者は
情報交換会を予定しています。

●演者

笠野 英弘（山梨学院大学）
松田 知華（国立スポーツ科学センター）
小木曾 航平（広島大学）
佐野 加奈絵（関西大学）

方式：対面（原則として対面での参加をお願いいたします。
なお、対面での参加が難しい方については、zoomでの参加も可能です。）

主催：日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員会

コーディネーター：雨宮怜（筑波大学）・石村広明（東京都立産業技術高等専門学校）
針谷美智子（新潟医療福祉大学）・柴田紘希（日本体育大学）

問い合わせ先：柴田紘希（wakatenokai.seminar2023@gmail.com）

申し込み先：<https://forms.gle/Eb1V5hSLEWS45ffv6>

参加希望の方は、**3月7日（木）**までに上記URLまたはQRコードより
お申し込みください。オンデマンド配信はございません。



● 登壇者プロフィール



笠野 英弘（山梨学院大学）

神奈川県生まれ東京育ち。山梨学院大学スポーツ科学部教授。博士（体育科学）。筑波大学第三学群工学システム学類を卒業後、ドイツに1年間サッカー留学し、帰国後、株式会社セリエ（サッカー大会の企画・運営）、日本スポーツ振興センター（総務やtotoの業務）に勤めながら筑波大学東京キャンパス社会人大学院体育研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻（修士課程）、同大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻（博士課程）に通う。その後、筑波大学体育系特任助教、山梨学院大学スポーツ科学部准教授を経て2023年から現職。同大学カレッジスポーツセンター副センター長兼務。専門はスポーツ社会学。主にドイツや日本のスポーツ組織を研究。

松田 知華（国立スポーツ科学センター）

愛知県出身。2017年に日本体育大学児童スポーツ教育学部卒業後、同大学体育科学研究科博士前期・後期課程を修了（体育科学）。博士後期課程時には日本学術振興会(DC2)および日本学術振興会若手研究者海外挑戦プログラムに採択。2022年度より国立スポーツ科学センタースポーツ科学・研究部研究員として着任し、研究および支援を行っている。専門分野は、「運動生理学」。女性の健康維持・増進、パフォーマンス向上に貢献したいという信念のもと、私自身も大変悩み苦しんだ「月経周期に伴うコンディションの変化」に着目し、研究に取り組んでいる。



小木曾 航平（広島大学）

愛知県出身。1983年生まれ。現在、広島大学大学院人間社会科学研究科准教授。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了。博士（スポーツ科学）。専門はスポーツ人類学。著書に『よくわかるスポーツ人類学』（共著、ミネルヴァ書房、2017）、論文にA Contemporary History of a Traditional Sport: Ushiorase (Okinawan Bullfighting) (The International Journal of Sport and Society第13巻第2号、2022年) など。

佐野 加奈絵（関西大学）

京都府出身。2008年大阪体育大学を卒業。2010年まで大学職員として勤務、2015年同大学大学院博士後期課程を修了。同大学助手、立命館大学グローバル・イノベーション研究機構助教、森ノ宮医療大学講師を経て、2023年より関西大学人間健康学部に着任。専門分野は骨格筋メカニクス、スポーツバイオメカニクス。動作解析と超音波診断装置や表面筋電図などより得るヒト身体の直接情報から、高い運動効率やパフォーマンスなどを可能とするヒトの巧みな運動動作中の骨格筋の制御メカニクスの解明を目指し研究活動を進める。



1. セミナー概要

— 開催趣旨 —

研究者は、様々なタスクを効率的に遂行するとともに、時には何かを優先し、何かを諦めるのかといった選択に迫られることもあるだろう。特に、若手研究者の多くは、不安定な雇用環境にあるとともに、ライフイベントが重なりやすい時期でもあり、これらの問題は切実かつ深刻である。研究者は、このような困難に対してどのように立ち向かえばいいのだろうか。

本セミナーでは、研究者を取り巻くワークライフバランスとキャリアに関する課題を共有したうえで、参加者が自身のキャリアについて将来展望を深める機会としたい。

— セミナー開催要項より一部抜粋 —

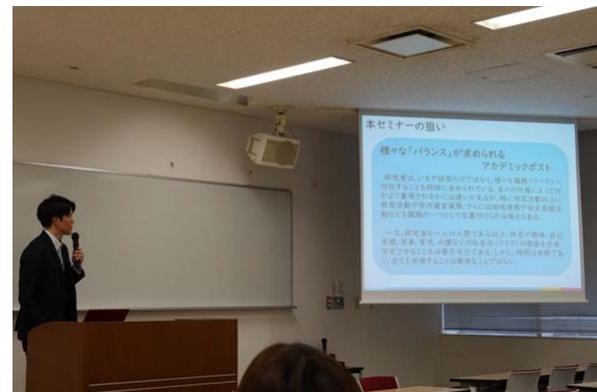


写真) セミナーの趣旨説明

～ 様々な「バランス」が求められるアカデミックポスト
いかにバランスを取りキャリアを考えるか？

— 演者 —

- ・松田 知華 先生 (国立スポーツ科学センター)
- ・佐野 加奈絵 先生 (関西大学)
- ・小木曾 航平 先生 (広島大学)
- ・笠野 英弘 先生 (山梨学院大学)

— コーディネーター —

- ・柴田 紘希 (日本体育大学)
- ・石村 広明 (東京都立産業技術高等専門学校)
- ・針谷 美智子 (新潟医療福祉大学)
- ・雨宮 怜 (筑波大学)

2. 各演者の話題提供

4名の演者の先生からは、ご自身の大学院時代から現在までの研究活動や、現在の職場環境、生活環境に触れながら、本セミナーの趣旨に沿ったご講演をいただいた。

◆ 松田 知華 先生（国立スポーツ科学センター）



女性研究者としての葛藤や、公私ともに充実させていくためのマインドの持ち方や具体的な工夫点などについてご講演いただいた。

◆ 佐野 加奈絵 先生（関西大学）



「研究」「教育」「社会・地域貢献」の連動を想定した大学研究者生活と、実際の大学教員生活とのギャップを埋めていくための視点や具体的な工夫点についてご講演いただいた。

◆ 笠野 英弘 先生（山梨学院大学）



これまでのキャリアを踏まえながら、家庭と仕事のバランスのとり方について、具体的な学内外の職務を踏まえた日々の過ごし方などをご講演いただいた。

◆ 小木曾 航平 先生（広島大学）



研究に没頭できる時間を捻出するために日々意識されている事柄についてご紹介いただくとともに、スポーツ人類学の分野に身をおき研究する魅力についてご講演いただいた。

小木曾研究室 HP （当日は、小木曾先生のスライドでリンク先をご紹介いただいた。）

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/kogisok/index.html>

3. パネルディスカッション

パネルディスカッション・フロアとのディスカッションでは、①多様な職務・業務が求められる中で、研究者はどのような職業的アイデンティティをもって活動していくべきか、また、そのようなアイデンティティ形成のためにどのような日々の活動が重要となるのか、②多様な職務・業務の実態とその実践的対応方策、若手研究者支援のための体制整備や研究者育成の在り方の2つの論点について意見交換が行われた。その後、登壇者ごとに4グループに分かれ、登壇者からの報告内容やディスカッションを踏まえた自由討議・情報交換が行われた（オンラインではオンライン参加者でグループを作りディスカッションを行った）。



写真) パネルディスカッション・フロアとのディスカッションの様子



写真) 司会者からの質問に回答する登壇者

4. 集合写真



写真) 会場参加者とオンライン参加者

参加者 38 名 (対面 13 名、オンライン 14 名、運営委員 7 名、登壇者 4 名)

本写真は、事前に承諾をいただいた上で撮影・掲載しています。

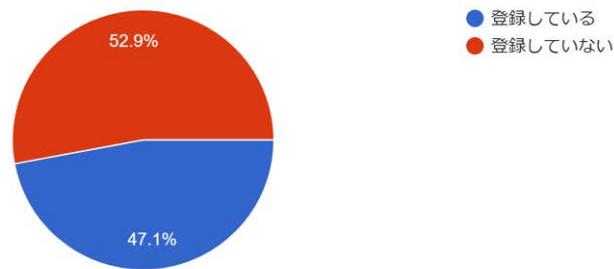
5. 第4回 日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー 参加者アンケートの結果

・回答数 17

・集計期間：2024年3月10日～3月21日

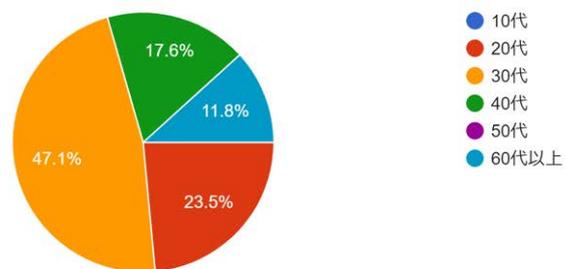
若手の会メーリングリストへの登録の有無を教えてください。

17件の回答



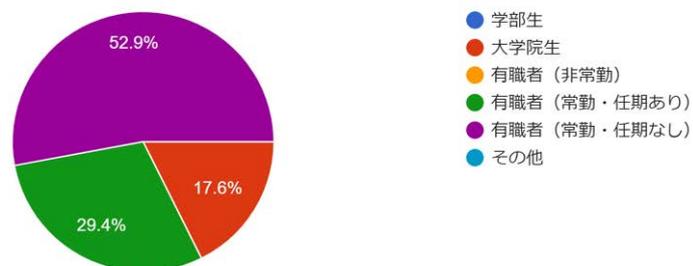
あなたの年齢（年代）を教えてください。

17件の回答



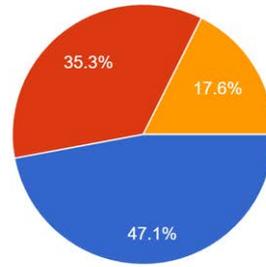
あなたのお立場（雇用形態）を教えてください。

17件の回答



本セミナー全体の内容はいかがでしたか？

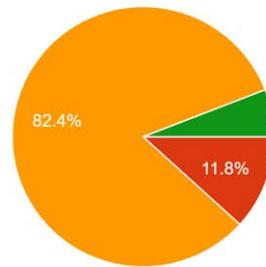
17件の回答



- とても良かった
- 良かった
- あまり良くなかった
- 良くなかった

セミナー全体の時間はいかがでしたか？

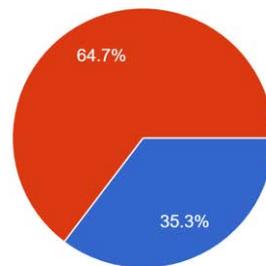
17件の回答



- 長かった
- やや長かった
- ちょうど良かった
- やや短かった
- 短かった

次回以降も「若手の会」主催セミナーに参加したいか教えてください。

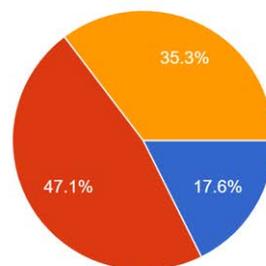
17件の回答



- 参加したい
- 内容を見て考えたい
- 参加したくない

次回以降の「若手の会」の参加形式はどのような形式を希望しますか。

17件の回答



- オンライン形式で参加したい
- オンライン形式と対面形式どちらでも構わない
- 対面形式で参加したい

本セミナーに関するご意見・ご感想をご自由にお書きください。(任意)

- 貴重なお話を伺うことができ大変有り難かったです。同じような悩みを抱えておられた先生方のお話を伺うことができ、皆さん同様の時期があったと安心しました。なかなか表では言いづらい内容のことも今回のセミナーで伺うことができ良かったです。ありがとうございました。
- もっと対面参加者多いと良いと思った
- 先生方の講演も良かったですし、グループワークの時間が設けられており、直接お話しできたことも良かったです。
- セミナー開催お疲れ様でした。各先生方のプライベートな部分も含めてお話しをお伺いでき、大変有意義でした。
- 各先生の価値観や大切にされていることが感じられるセミナーで良かったです。
- グループディスカッションの時間をより長くするなど、参加者同士の対話を中心とした構成にすると運営負担も減り、交流も促進されるので良いかと思いました。
- 若手の会のセミナーがどの方向を目指しているのかが、わかりづらかったです。個人のこれまでの取り組みをあげるのは例としてわかる一方で、若手に（どこまでが若手なのかわかりづらいが）なにを訴えているのかがわかりづらいです。
- 登壇された先生方の経験談をお聞きすることができて、貴重な時間でした。フリーディスカッションの時間（や、グループを固定して、時間ごとに先生をチェンジするなど）がもっと長くても良いかなと思いました。企画・運営、ありがとうございました。
- 非常に貴重な意見を聞くことができました。企画されたみなさん、登壇者、関係者のみなさんに感謝申し上げます。
- キャリアについて、博士後期課程の学生を仕事や家庭もありながら続けることに苦労しています。そのため、既にドクターを修了されている方ばかりのお話ですと共感できない部分や悩みを共有できないなと感じてしまいました。ドクターを取得するまでにも苦労をしている若手研究者（の卵）も多くいると思いますので、そういった声も聞けるような内容もありましたら嬉しいです。
- 主な所属学会に対する考え方とご本人の研究に関わる基本的な理論基盤を教えて欲しかった。
- 企画運営ありがとうございました。

次回以降の「若手の会」主催セミナーで取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください。
(任意)

- 研究計画の立て方、金銭管理計算など
- 学際的研究を進める基本的な情報として、各分野の全体像や着目ポイント、面白さなどが知れるとよいと思います。
- 研究時間の捻出方法や効率化を図れるツールの実践事例など
- 論文の書き方や解析ツールの使い方など実用的な内容も取り上げてほしいです。また、海外の研究者が使っている手法なども紹介してほしいです。
- この分野を発展させるためには、次世代の育成、発展が不可欠です。高校生、大学生が、この分野で研究したい、と思えるようにするために、若手のみなさんがどのように考えておられるのか、そのアイデアなどが湧くような企画を期待します。
- 現代スポーツをどのように捉えて研究をしているのかに関わるテーマを設定してほしい。

<報告書作成：交流促進グループ>

黒須 朱莉 (びわこ成蹊スポーツ大学)

小出 真奈美 (流通経済大学)

佐藤 洋 (明星大学)

加藤 彩乃 (信州大学)